

イルカの手



6月22日、石狩浜に漂着したイシイルカの死体。

今年6月、石狩や小樽など石狩湾沿岸の海岸で、イシイルカの漂着が相次ぎました。その数、11頭。これまでもイルカの漂着は決して珍しいわけではありません。

しかし、イシイルカに限定すると年に1頭あるかどうか、というくらい。1カ月間の件数としては異常な多さです。その原因についてはまだ何も分かっていませんが、現在いくつもの研究機関で標本の分析が進められているので、もしかしらなければ解明されるかもしれません。

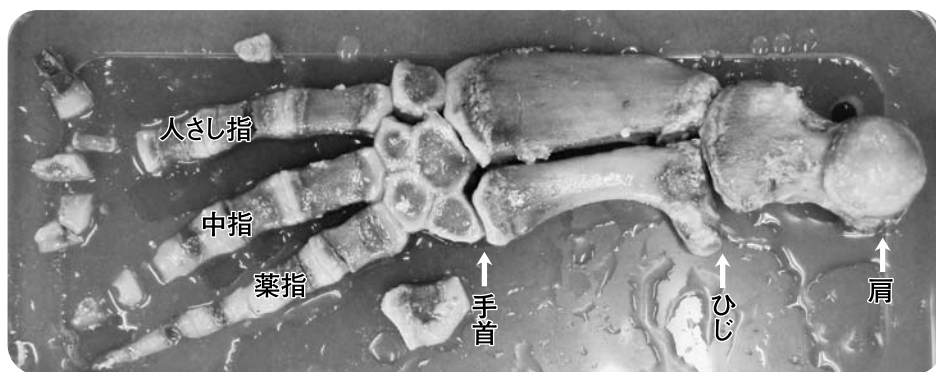
砂丘の風資料館でも、これまでに漂着したイルカの死体から骨格標本を作成中です。その過程で肉を取り除く作業をしていると、面白いことに気づきます。イルカやクジラには胸ビレ、背ビレ、尾ビレと3種類のヒレがあり、そのうち中に骨があるのは胸ビレだけです。その骨、まるで人間の手のように5本の指があるんです！さらによく見ると、胴体に近い部分には、とても短くて平べ

たいのですが、下腕(手首〜ひじ)と上腕(ひじ〜肩)にあたる骨も、ちゃんと収まっているのが分かります。

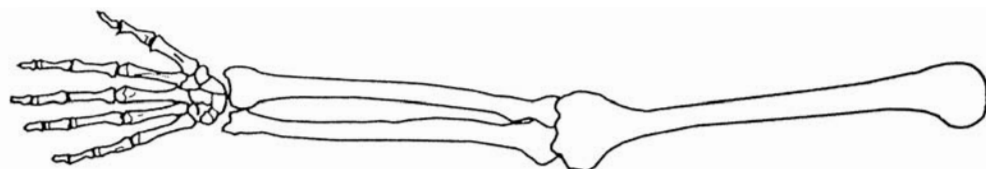
イルカやクジラは魚のように海の中を泳いで暮らしていますが、魚類ではなく、犬や牛、人間と同じ哺乳類です。はるか昔、その祖先は4本足を持った陸上を歩く動物でした。それが今からおよそ5500万年前、より豊富なエサを求めて海中へ進出していききました。歩く必要がなくなると、長い年月をかけて後足は次第に消えていき、前足はかじの役目を果たす胸ビレへと変化して、現在のような姿になったのです。

外形は魚とそっくりなイルカの胸ビレ。しかし、その骨からは、祖先の血筋と海の暮らしへの適応の様子を読み取ることができました。

(志賀健司)



平成18年に漂着したネズミイルカの胸ビレ(左)骨格。指は復元作業中のため、写真では3本しか分かりません。完成した状態は、現在開催中のいしかり砂丘の風資料館テーマ展『「手」〜骨にみる動物の生態〜』(20ページ参照)をご覧ください。



ヒトの腕(右)の骨格(原島・河合、2004より改図)。